

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile ご存知ですか? 日赤のこと ~あなたの素朴な疑問に答えます~

日本赤十字社富士見町分区

問 住民福祉課 社会福祉係 ☎62-9144

Q. 日赤が国の組織じゃないって本当?

A. 本当です! 税金で賄われている組織と思っている方も少なくありませんが、実は「日本赤十字社法」という法律に基づいて設置された民間の組織なのです。その活動に税金は使われておらず、赤十字の理念や活動に賛同いただいた皆さまから寄せられる活動資金によって支えられています

Q. 誰でも赤十字社員になれる?

A. その通りです! 赤十字の理念と活動に賛同し、年額500円以上の資金協力を継続していただく方を赤十字社員と呼んでいます。日赤で働く人という意味ではありません。国籍や年齢、個人・法人を問わず、どなたでも赤十字社員になることができます。



Q. 病院や献血は知っているけど、日赤って何をしている組織なの?

A. 国内外での幅広い人道支援活動が日赤の任務です。全国47都道府県に支部があり、世界189の国と地域に広がる赤十字ネットワークの一員として、災害時の救護活動や救援物資の配布、紛争地での医療支援、途上国への保健衛生支援などを展開しています。また国内では、社会福祉施設の運営、救急法などの講習、赤十字ボランティアによる地域での活動なども行っています。

Q. 日赤の活動って取っ付きにくい印象があるけど、私も参加できる?

A. もちろんです! 皆さまの身近なところで活動しています。富士見町にも赤十字奉仕団(赤十字ボランティア)があり、AED(自動体外式除細動器)の使い方や、もしものときの応急手当を学べる救急法などの講習会を開催したり、災害時のための炊出し訓練などを行っています。町内で45の方が参加していて、いつでもメンバーを募集しています。



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの領分を守るために~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「表現する」ということ

小さな子どもが、積み上げた積み木を指さして、お母さんに向かって「見て見て!」と呼びかけています。お母さんは「わあ~、高いね~」と答えます。

子どもと親の日常に、よくある何気ないやりとりです。そして、この「見て見て!」が頻繁になってくると、親は家事の途中だったりして「ちょっと待って」「あとでね」と言う回数が増えてきます。これもまた、子育て家庭にはよくある光景です。

さて、この「見て見て!」。実は「表現」の第一歩なのです。子どもはいつも人に見てほしい、見て共感してほしい。そして、見ていてくれた、共感してくれた、という経験をたくさんして「表現してもいいんだ」「表現することが楽しい」となります。

ここで言う「表現する」は、音楽やダンス、絵画やスポーツなどの具体的な表現活動ではなく、自分の気持ちや感情を他者に対して表す、といったコミュニケーションの基本を指します。

子どもが積み上げた積み木を、「でもこうやった方がもっと高くなるよ」とか「ここが変だからもっと上手にやってみて」など修正を求めたりすることも、子どもに期待するあまり大人がよくやってしまうことですが、「見て見て!」で子どもが表現する楽しみを発見していくんだと思えば、大人も大きな心で受けとめられるような気がします。

「受けとめ」や「共感」は子どもの「表現する力、表現したい気持ち」を育てる第一歩。人への信頼感の芽となります。

子育てひろばAiAiで、森のいえぽっちで、そして小学校放課後のあそびばで、私たちは日々そんなことを念頭に置いて子どもたちを見守っています。



Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

【今月のアーティスト】 小松 嘉門（こまつ かもん）さん 版画家・富士見町在住

小松嘉門さんは東京都の出身で、和光大学人文学部芸術学科を卒業。「木」をモチーフに木版画を制作しています。「東京都多摩市第1回うるおい展」入選を皮切りに、「上野の森美術館大賞展」、「岐阜県飛騨高山ビエンナーレ」で入選を重ねてきました。また、東京や長野、大阪などのギャラリーで数多くの展覧会を開催。海外では、インドネシアのバリ島にある、アグン・ライ美術館でも個展を開催しました。バリ島の木々を描いた作品も多数制作しています。1998に富士見町立沢に移住した後、「アトリエ&ギャラリー 楡の木」を開き、こちらで作品を制作・公開しています。

小松さんは大きな樺（ケヤキ）が好きで、特に冬場、葉が落ちて木肌がよく見える頃にスケッチに行きます。都内に住んでいた頃は、魅力的な樺や古木を求めて、方々に取材に出向いていたようですが、富士見町に来てからは、大好きな樺の巨木や、自然豊かな森、神社の鎮守の森が身近にあるので、題材には不足しないと言います。小松さんの作品は、版画では珍しい大判で、銅版画を思わせる繊細なディテールと豊かな色調が特徴です。写真の《芽吹き待つ頃》は富士見町の釜無川沿いの道にある樺を描いた作品で、傾きながらも幾筋にも伸びた根が、しっかりと地をつかんでいる姿に、たくましさを感じます。小松さんは、スケッチしたお気に入りの木と対話しながら、今日も版木に向かっていることでしょう。



▲芽吹き待つ頃 150cm×90cm 木版画



▲Gate of Durga 150cm×140cm 木版画



▲新作の試し摺り

【Information】 小松さんの作品は、アトリエ&ギャラリー 楡の木 (TEL: 0266-66-2860 / 住所: 立沢5564) でご覧いただけます。訪問される際は、なるべく土・日曜日にお電話にてご連絡ください。

展覧会: ●ホテル コロシウム・イン・蓼科「二人展 森の記憶」開催中 ~6月24日(火) ●富士見町高原のミュージアム「小松嘉門 木版画展」11月1日(土)~12月26日(金)

ホームページ: <http://www5.ocn.ne.jp/~comeon/>

Facebook: <https://www.facebook.com/comeon.komatsu#>

文: 前島孝一 (小海町高原美術館館長・清里フォトアートミュージアム職員) 富士見町富士見在住
facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>

Stay Smile 「仕事と感謝」を学ぶ

富士見中学校 女子バスケットボール部



富士見中学校女子バスケットボール部は、「県大会ベスト8」を目標に日々練習しています。練習はとても厳しく、夏や冬の長期休みでは主に走り込みが中心です。暑さや寒さに耐えながらのトレーニングはとてもきついです。これを乗り越えなければ県大会出場は夢に終わってしまいます。だからみんな、歯を食いしばって日々がんばっています。私たちバスケ部が、入部してから最初に先輩や先生に教えてもらうこと、それは「仕事・感謝」です。仕事というのは主に練習前の道具の準備、練習の中での準備などです。一見簡単なことに見えますが、仕事をするには先を読むことにつながり、さらにバスケのプレーにもつながってきます。

そしてもうひとつ、バスケをやる上で一番大切にしなければいけないこと、それは「感謝」です。バスケを一人でできる人はいません。バスケを教えてくれる先生・コーチ、審判をしてくれる先生方、休みの日なのに私たちのために送迎やお弁当を作ってくれる親、たくさんの人たちに支えられて初めて、私たちはバスケができます。だからこそ、感謝の気持ちを忘れないようにしています。

今、私たちは夏の中体連に向けてチーム一丸となってがんばっています。プレーが思うようにできなったり、気持ちがすれ違ったりしてしまうことがあるかもしれませんが、そんな時は、みんなで話し合い、部員みんなで一つ一つ乗り越えていきたいと思えます。本番では私たちがらしいプレーができるよう精一杯がんばります。応援よろしくお願ひします。

(女子バスケットボール部部長 佐谷真冴子)

